

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：商業動態統計(2015年4月)

発表日：2015年5月28日(木)

～小幅増加だが、足取りの鈍さは拭えない～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝
TEL：03-5221-4524

(単位：%)

		商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店			百貨店		スーパー		コンビニ販売額
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店前年比						
2014	1月	4.4	1.8	4.4	2.8	4.4	1.6	0.7	0.0	3.3	▲1.8	▲0.1	▲0.1	▲0.1	▲0.1
	2月	2.5	▲1.8	2.0	▲1.6	3.6	0.1	2.4	1.4	2.9	0.6	0.9	0.9	0.9	0.9
	3月	8.5	7.0	7.5	4.0	11.0	6.5	17.0	16.2	25.3	11.1	2.8	2.8	2.8	2.8
	4月	▲3.4	▲10.3	▲3.0	▲9.4	▲4.3	▲13.4	▲6.0	▲6.7	▲9.9	▲5.1	▲0.3	▲0.3	▲0.3	▲0.3
	5月	▲1.0	2.6	▲1.3	2.0	▲0.4	3.8	▲0.5	▲1.2	▲1.9	▲0.8	1.3	1.3	1.3	1.3
	6月	▲0.6	▲0.2	▲0.5	▲0.3	▲0.6	0.9	▲1.2	▲1.8	▲2.3	▲1.5	0.2	0.2	0.2	0.2
	7月	0.1	0.6	▲0.1	0.9	0.6	0.6	0.3	▲0.6	▲0.4	▲0.7	0.8	0.8	0.8	0.8
	8月	▲1.6	▲1.5	▲2.8	▲0.5	1.2	1.2	2.8	1.6	2.0	1.4	▲0.3	▲0.3	▲0.3	▲0.3
	9月	1.6	2.8	1.3	1.7	2.3	1.7	1.7	0.5	1.8	0.0	0.9	0.9	0.9	0.9
	10月	0.3	▲0.9	▲0.1	0.0	1.4	▲0.6	1.0	0.0	0.2	▲0.1	1.1	1.1	1.1	1.1
	11月	▲2.7	▲1.6	▲4.1	▲0.8	0.5	0.0	1.9	1.1	1.5	0.9	0.6	0.6	0.6	0.6
	12月	▲1.4	0.8	▲2.0	0.1	0.1	0.0	0.7	0.1	0.6	▲0.2	0.9	0.9	0.9	0.9
2015	1月	▲2.7	0.5	▲3.1	2.3	▲2.0	▲1.9	0.6	0.0	▲0.4	0.2	1.6	1.6	1.6	1.6
	2月	▲3.3	▲2.4	▲4.0	▲3.4	▲1.7	0.7	2.0	1.3	3.5	0.2	0.8	0.8	0.8	0.8
	3月	▲8.3	1.4	▲7.7	▲1.0	▲9.7	▲1.8	▲12.3	▲13.0	▲17.7	▲10.1	▲0.6	▲0.6	▲0.6	▲0.6
	4月	2.7	0.6	1.8	0.8	5.0	0.4	9.5	8.6	13.7	6.3	4.1	4.1	4.1	4.1

(出所) 経済産業省「商業動態統計」

○小幅増加だが、足取りの鈍さは拭えない

経済産業省から発表された4月の小売業販売額は、前年比+5.0%（コンセンサス：同+5.5%、レンジ：同+1.9%～+7.0%）とコンセンサスを小幅に下回った。昨年4月は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動を背景に大幅減となっており、前年比では高めの伸びとなった。季節調整値では前月比+0.4%と増加したものの、増加幅は小幅なものに留まっている。4月は春闘を受けた賃金増加による好影響も期待されたが、今回の結果では小売業販売額の明確な押し上げは見られなかった。小売業販売額の足取りは鈍いままであり、物足りない結果が続いている。

業種別に名目季節調整値をみると、「自動車小売業」（前月比+15.2%）が小売業を牽引した。ただし、日本自動車販売協会連合会が公表している4月新車販売台数（季節調整は筆者）をみると、軽自動車税引き上げに伴う駆け込み需要の反動などを背景に軟調な推移が続いている。前月に大幅減少した点も併せて考えれば、今月の結果は割り引いてみる必要がある。「燃料小売業」（同+5.2%）は、原油価格の上昇を受けて6ヶ月ぶりの増加となった。その他、「織物・衣服・身の回り品小売業」（同+3.7%）、「飲食料品小売業」（同+0.7%）がそれぞれ2ヶ月ぶりの増加となった。一方で、百貨店を含む「各種商品小売業」（同▲2.6%）が減少、外国人売上高は好調を維持しているものの奮わなかった。また、「機械器具小売業」（同▲2.5%）も減少しており、改善基調には一服感がある。

○個人消費を取り巻く環境は良好

もともと、消費を取り巻く環境は改善しており、先行きの小売業販売額は徐々に回復感がでてくると見込んでいる。個人消費に大きな影響を与える消費者マインドをみてみると、改善傾向で推移している。4月消

費動向調査によると消費者態度指数は前月差▲0.2pt と5ヶ月ぶりに悪化したものの、悪化幅は小幅なものに留まっており基調は上向きだ。4月景気ウォッチャー調査でも、現状判断D I（季節調整値）は改善傾向にあるなど、停滞していたマインドは持ち直しつつある。また、雇用の改善が持続していることも追い風になると見込まれるほか、春闘を受けた賃金増の影響も徐々に顕在化してくるだろう。加えて、6月以降は公的年金の支給額が前年比+0.9%と増加する予定であり、高齢者消費の後押しとなることが期待される。こうした要因が下支えとなることで、小売業販売額は徐々に明るさが出てくるだろう。

